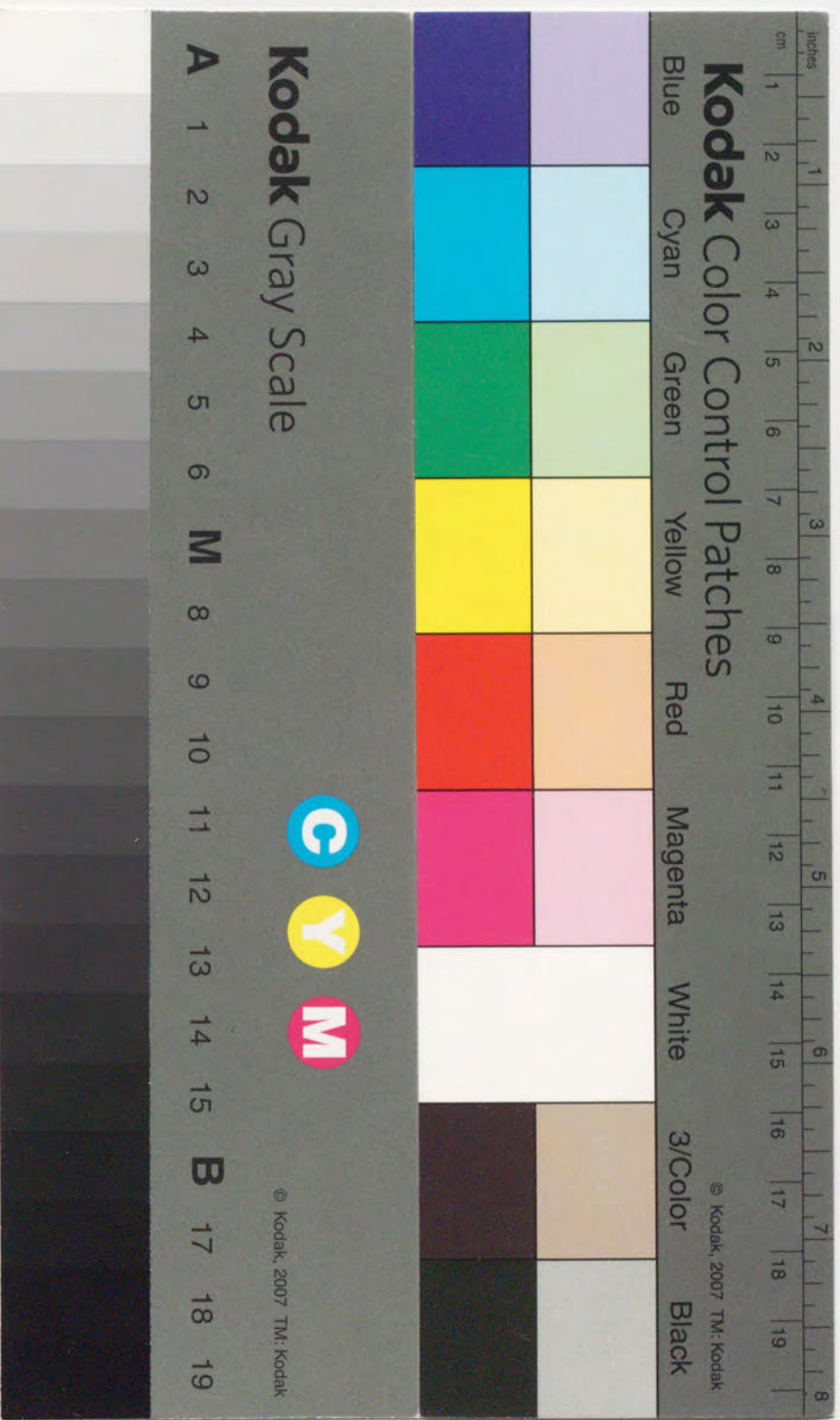




（龍）（龍）

虞舜	漢文帝	曾參	閔損	仲由	董永	劉子	江革	陸績	唐夫人	朱壽昌
孝	親	嚙	軍	為	賣	鹿	行	懷	乳	棄
感	嘗	指	衣	親	身	乳	備	橘	姑	官
動	湯	痛	順	負	藝	奉	供	遺	不	尋
天	藥	心	母	米	父	親	母	母	怠	母
王祥	郭巨	楊香	庾黔婁	黃香	姜肱	蔡順	王裒	丁蘭	孟宗	黃庭堅
臥	為	搯	嘗	扇	勇	拾	聞	刻	泣	滌
冰	母	虎	糞	枕	泉	堪	雷	木	竹	親
求	埋	救	憂	溫	躍	娛	泣	祀	生	
鯉	父	心	衾	鯉	親	親	墓	親	親	

虞舜

孝感動天

虞舜ハ黄帝の後
 たり父と瞽瞍といふ
 幼にして母を失ひ父
 後配を要する象と
 生む父ハ固頑
 して後妻と
 三男の象と舜
 舜と瞽瞍ハ



いさふ是を恨まば
 父母ハ順あるん
 と父願ふ後意ハ
 大孝行の徳頭
 父と堯の禪と
 うけ天子となり
 あり曾童より
 在せし死歴山耕
 あり象来アてその
 カを佐け鳥来つて
 父の勞を輔くこと
 孝ハ天を感ずる



漢文清

親嘗

湯藥

漢の高祖の

中子に

天子の位を

即ちひて

御母薄

大夫人小孝

行とほしめ

御母病は臥

夜衣冠を

解りて朝

多の食をため

茶に至りて

親嘗をりて

進めりて天子の

尊き身ありて

いくせをせうふて

つと有るは孝心

なり



曾參
齧指

痛心

曾子ハ孔子の

弟子ありて

大孝行の人なり

故ハ孔子あの人

小孝經と授け

あつて一時

曾參山へ薪を採

行つて母の

親を來りりて六母

をばさすくどくど

ころ小仕せバ曾參

早くかへりてあひて

自ら指を齧ける山中

在り曾子心痛るふ

かどつれ急ぎこゝろ

かゝ小窓に既ニ歸り

曾子その故をかう

くん孝子親を忘れ

言の誠ニ感ト



聖賢

單衣

順母

関損字ハ子奮

孔子の弟子

十哲の一人也

孝行チウ人ヲ

幼多ク母ニ

父後配を娶

二人の兒を生む母その

兒を愛シ関損

憎むと云ふ

曾て恨ミバ孝敬

と傷ミ

父その寒

衣を

授け

竟其の妻と云

めて曰母

在るは

子と云ふ

伏し

悔

意

愛

愛



字と子
人小傭
と孔門十哲の内より家貧として
承て負ふといふ所の貸とて而親と

養ひたり父母泣く後
楚國小什名大功也

老富貴の身を
食

衣服

可と

不显

米

心

7

し

卷之

悦

470

賤

方 益

慕

常



董永 賣身 葬父

董永の後漢の人なりを母を
喪ひ父は事て孝なり父死して
葬むるに便る日比催り主人の
許より 錢十貫文を
借て長くその家の
下奴さんと約し
錢を得て父と葬
かくて其家へ至らんとするに
路中 美しき女と遭ひ強て
永が妻となり 主人の家へ至



一月の間は三百
匹の絹を織て
その債を償ひ
我は天帝の織
女なり 天帝
君が孝
を感ず
我を償て
償
いひて
雲より
来たり



剡子 鹿乳奉親

剡子ハ其姓氏及時代を
詳まじ相傳へ孝行の
名を稱せり父母年よりて
眼と云ふひけは医療
と云けふ鹿の乳を用ひ
さして癒はじといふあれ
ども殺さる鹿より乳を
索ひて乳をくれば鹿の
皮と云ふて山中へゆき
鹿より交る乳を索

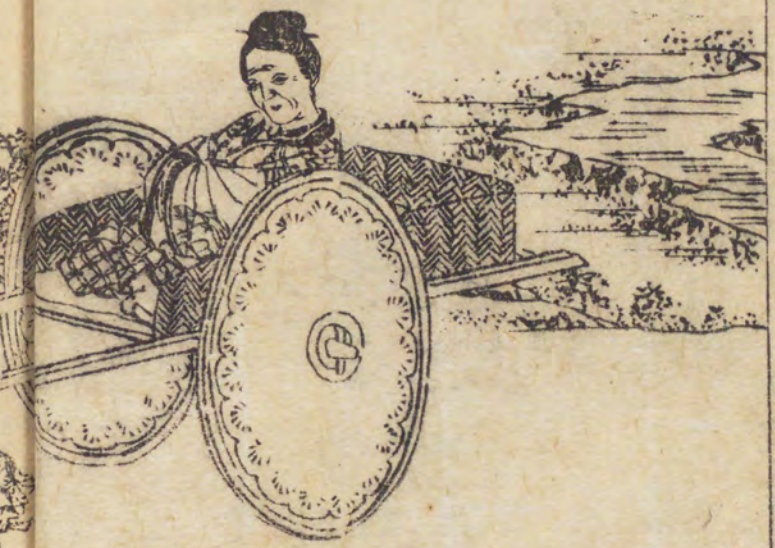
めんとはる時獵人
來り射るんとし
剡子驚き声と揚
てその実を告る
けふ獵人弓矢を
あせて通りぬかる
と云ふ死業あれど
誠心のより天の
をさるるて
必死の鏃と



江革

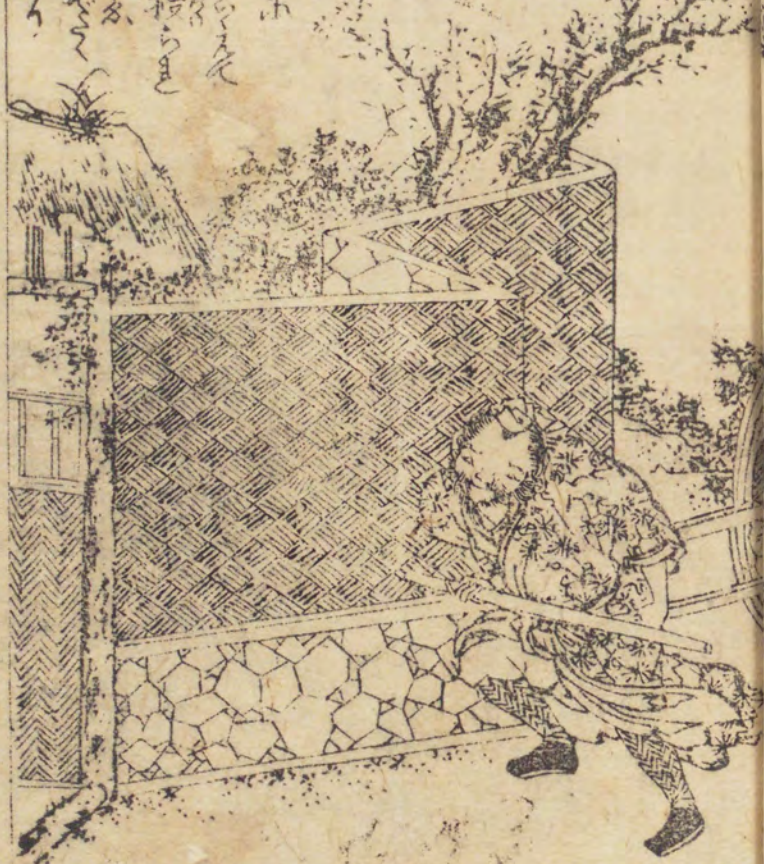
行僮供母

後漢の人なり世の乱れ
 あひて母と伴ひ他国に
 身を難と避て其身ハ
 蹴赤裸ありて人よ
 僮といて母を養ひ
 其の後世治まて
 故郷へかへりて母を
 車に載せ
 牛馬



自ら
 こゝろを
 つかまへ
 孝と稱
 朝廷に

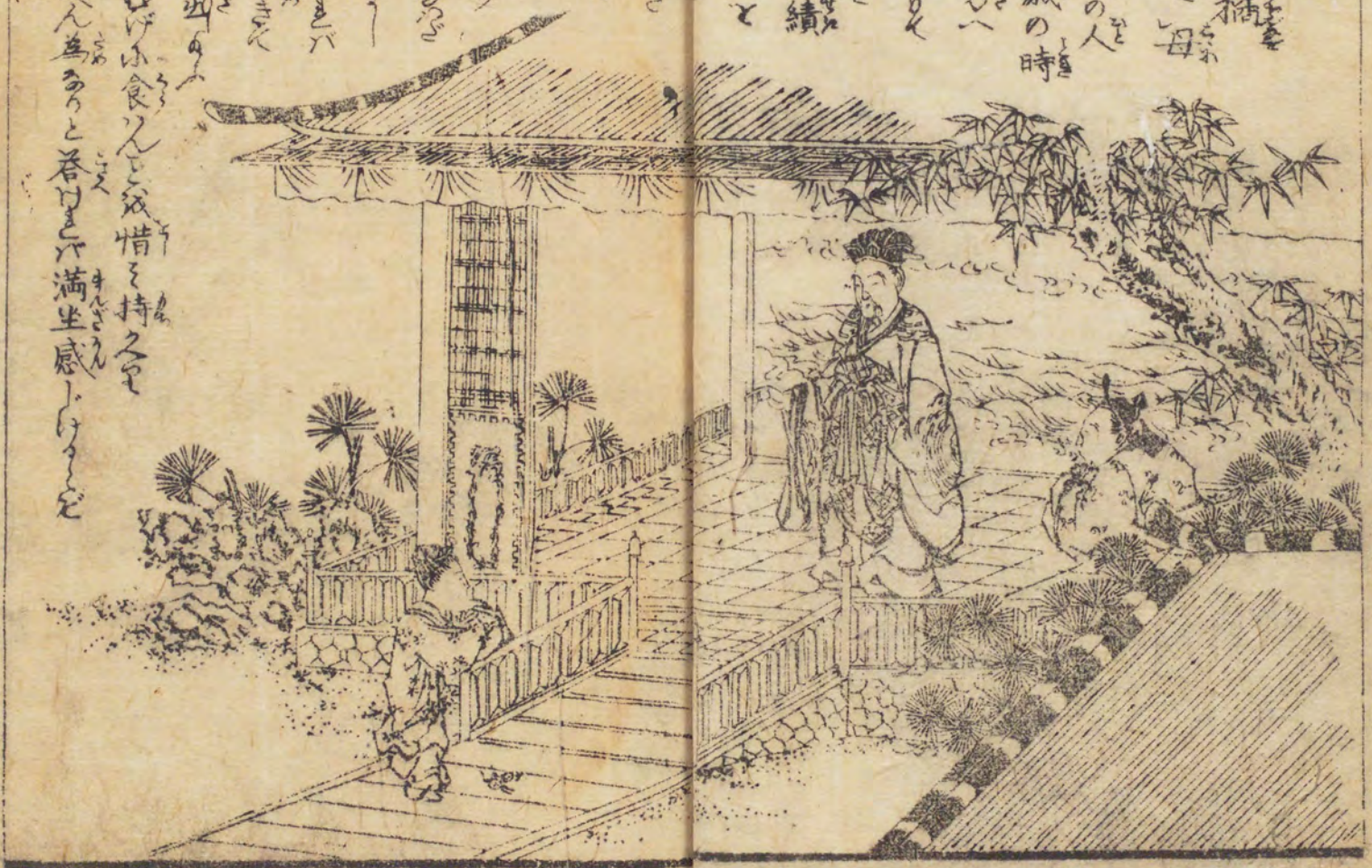
高官と授け
 栄々



全續
懷橋
遺母

三國の時の人
なり六歳の時
袁術の方へ
行けり
小橋を
出り陸續
密に三枚と

歸る
腰と屈め
けるふ地
小橋を
袁術の方へ
尾籠の
陸續跪き
児あり
珍果をむけ
母の心為ありと
答りて満生感し



唐夫人

乳姑不思

唐夫人唐の博陵より
崔南との久の妻なり姑の
長孫夫人は孝を以て
かく長孫夫人年老に齒なく
食度心のすまざるは朝夕
乳をふりて養ひて小無病
ありて長壽を保ちたる
病ありては其の親族に

招きいれり長生

唐夫人の恩あり
そを報じて
死小いなるを憾
なき願ふ
子孫のこむつ
此夫人の孝心を
まゝ行はゆ
樂米やふへ遺
言々失ふとらん



益 恣 蚊 飽

吳猛ごまうのふみ

時の今よりを

幼少八歳

孝乃名世

子之室也

文長の

虫情のて
ちて
父母教子

有為之學

力心を

赤

祖の方々

父
母

父母

卷之五

五三六

あふふ 並べー ーとあひまはるのちごもふふね

中を辨ハケレルともハタニ舞マシふハあハバニ毎ニレル人ノ形ノ人ノを思ふハ

河内之縣也。東之爲雒水。八尋少。女初。其意。有。さ。る。と。ふ。と。



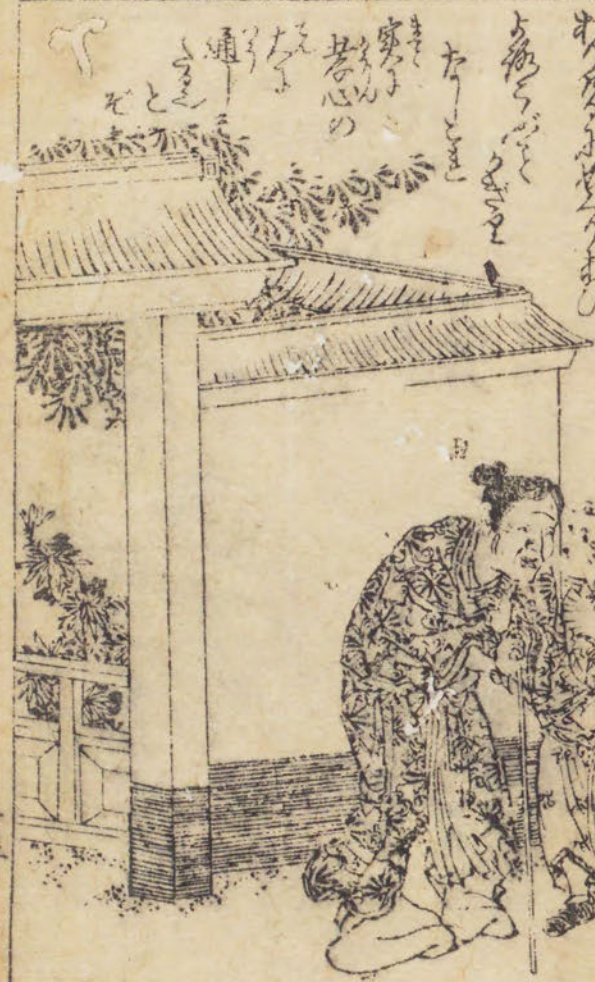
木壽昌

棄官 荒母

七歳のころ父新小
 美をとりまて市路を歩
 母を多きふれりてふは
 新と限りてふはを孝行を
 見きだ父と後知はを孝行を
 けしけふと後五十親を
 父と後知は世に夫より官を
 棄て母の行方と求め天の祈り



地味持てふふふふふふ
 千と後知は世に夫より官を
 わりたりふふふふふ

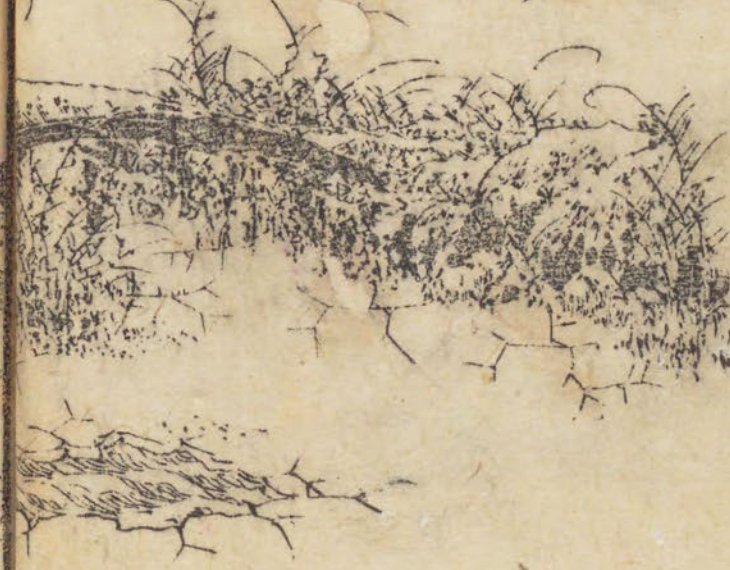


孝心の
 通
 ぞと

王祥

目氷求鯉

王祥ハ晉の代代人あり
 母は老を孝行を
 母の生魚を食せんと
 かの望みふ水も空氣
 凍りき時江に
 氷をくち魚をとるぞ
 御事なりといふもかく
 孝心の人なり其赤裸なり



氷の上ふけり心中
 魚を獲て
 祈るにふ水で
 玉祥が母の形
 小解て二尾の
 鯉を
 獲て
 悦び
 交々を母ふ
 進め
 孝の徳
 天を感ぜり

斯のど



郭巨

為母埋子

後漢の人なり家
貧にして老母を
養ふふその食の
不足を云ふんを
悲む老母ハ三歳小
の孫を養ふて
その食を口とちふふ
ゆへ郭巨は婦人



十四

その兒を埋む
たふ金二金
は天孝子
郭巨は賜ふ
いふ文はあり
すめとれり
家富す
孝子



撻虎放

父ちち 揚やう香かうの魯ろの
國くにを揚やう
豊ほうの兒こを
幼せうより孝かう心しん
深ふかく父ちちを
侍しやうふ
雞けい立たて



その
孝

父と共小
 父の如く
 虎と共
 父を食ふ
 楊香ちる
 虎の首す
 父つねに
 父を助け
 父の如く
 父を食ふ
 楊香ちる
 虎の首す



忠孝
 孝心
 世ふ
 まい
 せん
 楊香
 せん
 せん
 せん

庾黔婁

嘗以米糞

憂心

扇陵

野のふもとまで

勝るがゆゑと

おもむき

老
子
入
心
之
門

身より汗

一

わづらふ故郷の

父身の
うん
うん

意きかひ小
 果して父重き段刑を
 かひ多その早來する放を
 いかりなる有一津身をかり
 正を脱る小まの解ひ等
 善降かのみうその重の
 中ひきくか金ぐ一甘が
 金じといひる衣自らの
 米重を重なるるに

夜く小辰
祈を
身を
茶代金
祈を
孝心の体
その
その
七



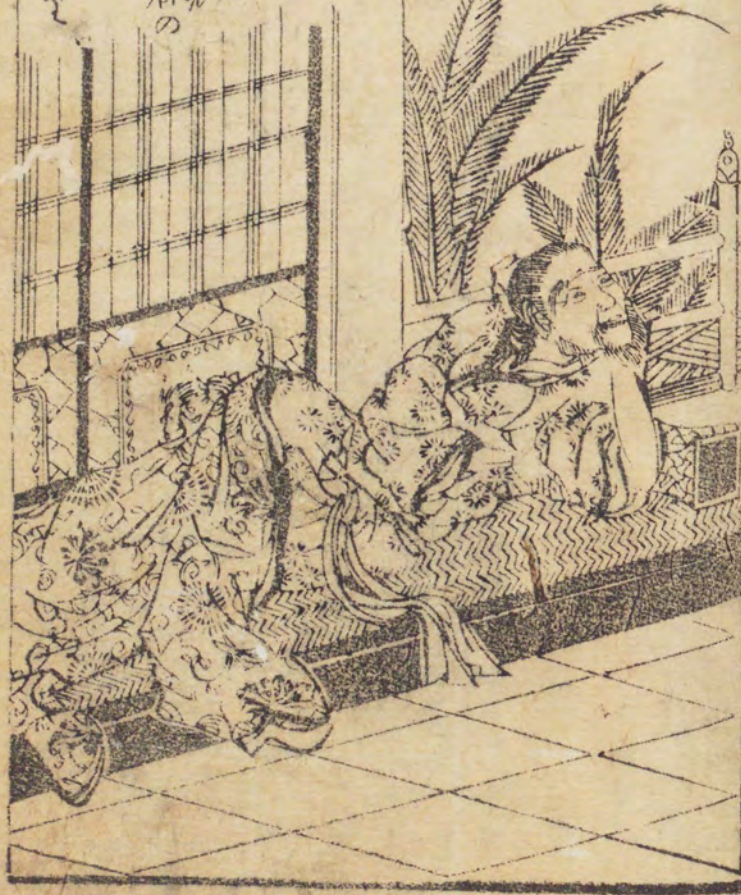
黄香

扇枕温衾

後漢の黄香字ハ文強
修曲道学を究め文章を
能すを以てその名を
九歳の母を病む
父は仕をなす
家貧くめつみ
あけは六自し力を
夏の旦もくろく冬



清く冬に
室に寝を
身とて床を
あてて父を
あてて
かくれ
孝行
朝廷つて
尚書令魏郡の
大守



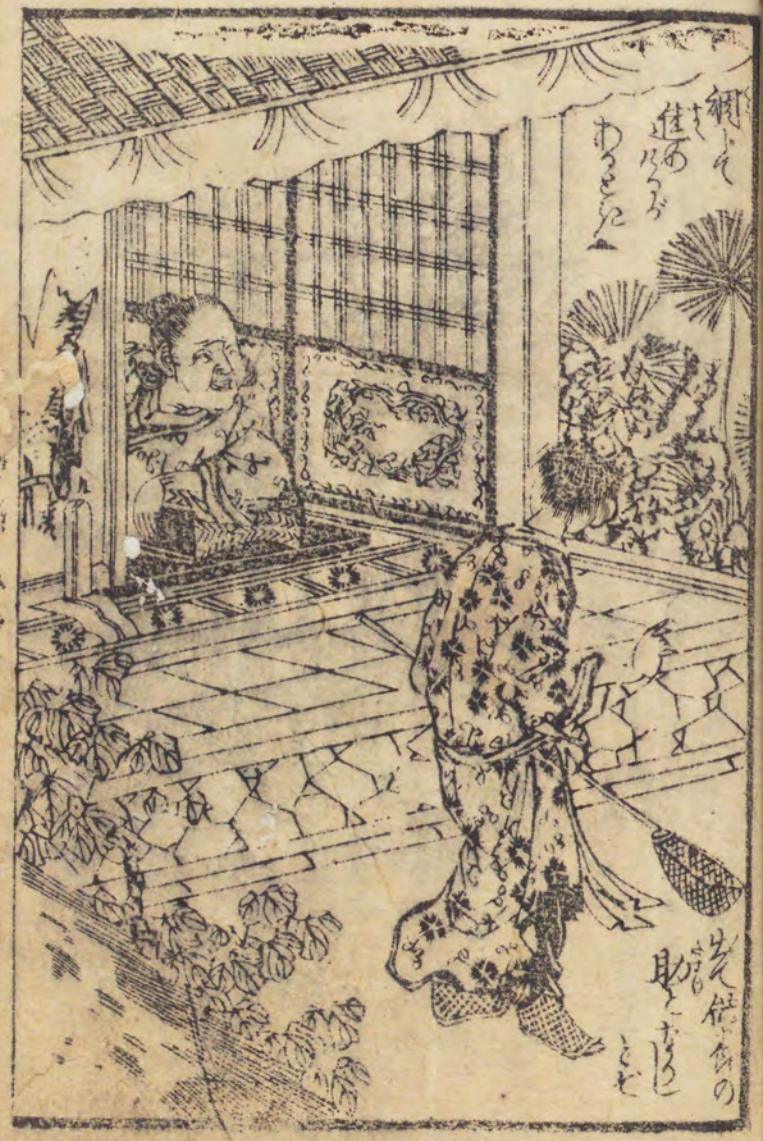
姜詩 湧泉

躍鯉

後漢の人あり母小ほろとんく
至孝あり妻龐氏もす姑小
考りて居りけるあるは小
母井の水とさきい江の水と
のむとを好むこの故に小
清き江の水なきてより母
龐氏遠より水と汲まり
すめはく生ゑれ
鮓とらめりゆあ



小異ありん
すこの水
毎二日の鯉
家の
静けさ
品
はの水



綱
進
あ
わ
と
ら
め
り
ゆ
あ

助
と
ら
め
り
ゆ
あ
の
と
と

後漢の人ありあの比
王莽の乱ふより飢饉
の母と云ふ人ありけり

[illegible]

その意は二つありけり
 赤きこころ死
 とをうけるを
 赤膚の賊と
 通うがまを
 その故を
 なるを
 なるを
 なるを
 なるを
 なるを
 なるを



三
 五
 七
 九
 十一
 十三
 十五
 十七
 十九
 二十一
 二十三
 二十五
 二十七
 二十九
 三十一
 三十三
 三十五
 三十七
 三十九
 四十一
 四十三
 四十五
 四十七
 四十九
 五十一
 五十三
 五十五
 五十七
 五十九
 六十一
 六十三
 六十五
 六十七
 六十九
 七十一
 七十三
 七十五
 七十七
 七十九
 八十一
 八十三
 八十五
 八十七
 八十九
 九十一
 九十三
 九十五
 九十七
 九十九
 一百



丁巳
蘭

刻木

祀
親

少々
急
来
ハ

思慕にまぎるその

木像を流す所

いふはえり

とふその時がある

子不語怪力亂神

卷之四

漢書の問子あり

本條の老
且ちの文を

卷之四

王

事

子思子

卷之四

[illegible]

陽

卷之五

卷之六

菊

22

おのり
下さん
とす

とのき
とるん
丁蘭

本草子

13

子

家

三

仲明

10

あ
罪
と

卷之五

孟宗

泣竹

事

呉の孟仁

卒の名と宗と誤

孫皓は泣くを

司空とせり

その人の母を



あつたふあつた

の勢下つてき

筆をきこはる

孟宗のとき

のゐる竹村

天子新を

あらば

はくわ

おび振

すゝめ

まを



黄庭堅

滌親

溺器

自ら山谷

道人といふもの

人文章よりト

詩は長ト天下の

文宗と云ふ因て

官をく家



世に傳へ来りぬる四百餘州の孝子日づかサ人知れぬる事す

目のまへに神國の功しきまへて仁義を常行通ひる事けり

わねぬも母がして孝子貞女幾千人と云ふも物今世にあらざれば

義烈を廢てしるも物屋敷の應むるやうなる中に女が必々の文

世にわねぬる物の本れどもより極書と云ふ大業を成る人求め

いふもがく微塵もの世にあらざれば二十四人て一冊の冊子にあらざる

滅ぬ九牛が一毛のよりまじ今世の幼童に道をもぬれば得史をえ

せんり女の勸善のよりまじ今世の幼童に道をもぬれば得史をえ

天保十四癸卯十一月稿成

樂亭主人述



仁徳天皇

應神天皇弟にの宮へ
 孝行ふりてせり
 然るに父帝第五の宮に
 宮に就てありて太子に
 立かれその翌年崩れ
 かくつらばその宮に
 たりて孝行ふりてせり
 ののみ天皇の父の宮に
 たりて孝行ふりてせり

多るに
 のりて
 みまに
 たり
 たり
 たり
 たり

孝行ふりてせり
 然るに父帝第五の宮に
 宮に就てありて太子に
 立かれその翌年崩れ
 かくつらばその宮に
 たりて孝行ふりてせり
 ののみ天皇の父の宮に
 たりて孝行ふりてせり



文部三子

元正天皇御時
 藤原の司文部卿の墨勝
 うりさむをあるるそ
 流罪に定まりたり
 墨勝男の子あり
 兄ハ士ニ次り九ツ其次ハ
 七ツカウハ次り罪と
 わかり官断りたり
 といふものありある



あくと
 大平院
 けい素
 帝御
 威のひ
 あり
 あり
 あり
 あり





樵夫喜十郎

傳中のふれられぬやうな村
 小作やといふものあり人
 母に孝かあはれ、徳が野人なり
 ありともや、徳のまかりされども
 母を長方六やうとせよと
 孝やにあらざるある小作
 せしめ、徳きとて、人ありを
 難別は村のりのも、ありき
 母に不孝、ありき、ありき
 ありき、ありき、ありき、ありき

ちあらぬやうな村
 母に孝かあはれ、徳が野人なり
 ありともや、徳のまかりされども
 母を長方六やうとせよと
 孝やにあらざるある小作
 せしめ、徳きとて、人ありを
 難別は村のりのも、ありき
 母に不孝、ありき、ありき
 ありき、ありき、ありき、ありき



ちあらぬやうな村
 母に孝かあはれ、徳が野人なり
 ありともや、徳のまかりされども
 母を長方六やうとせよと
 孝やにあらざるある小作
 せしめ、徳きとて、人ありを
 難別は村のりのも、ありき
 母に不孝、ありき、ありき
 ありき、ありき、ありき、ありき

矢田部黒磨

成親國入間形の人なり

父か小ゆき孝あり

けふ父母

むねくちあつては

悲しくふたれ

士多の同あき

食物をえ務進

いふのりあつ



ふたれとあき
孝あり



役とあき

孝あり

先仁天

時代

大正

藤原衛

賜た大臣藤原

内膳の第十に

あまのり子なり

二束れられぬに

かまそくふまのされ

おあまの事と

さづけられ深く

悲しめる有さぬ

年れけり

人

唯

人

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

海

海

海

海

海

海

海

海

海

海

海

海

海

海

海

海

海

海

海

海

海

海

海

海

海

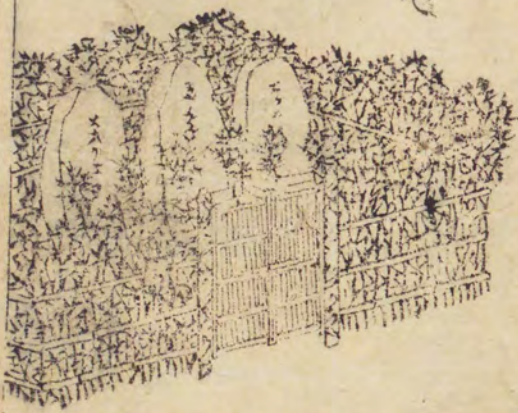
海

海

海



宋女ハ河馬の上
 あやうき人カ
 不意にまた変小車くはま
 ううからち膝しゝゝ 換あふりの
 救あけられぬおわくはありて
 再びまふまふえんは父母あつて
 孝淑は父母あつてのけし
 慕れぬり小倉とそあつて
 洲の人そ孝かふをうと
 とく清へるそこの附の岸
 林佐天宮と感



土
 其の
 其の
 其の
 其の

紀夏井

孝行あるて母をすれ

善孝は子なり

心清く学文あり

孝仁壽の帝は

四元電にあたり

右中辨小いり

孝行あるて母をすれ

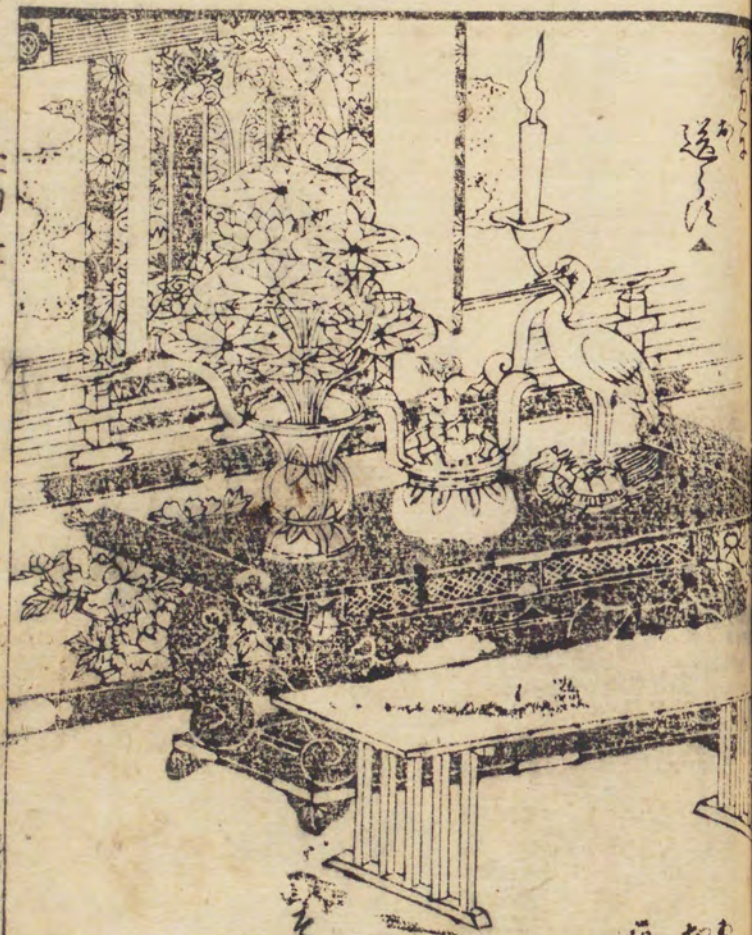
孝仁壽の帝は

四元電にあたり



孝行あるて母をすれ

送る



孝行あるて母をすれ

孝仁壽の帝は

四元電にあたり

右中辨小いり

孝行あるて母をすれ

孝仁壽の帝は

四元電にあたり

右中辨小いり

孝行あるて母をすれ

孝仁壽の帝は

四元電にあたり

右中辨小いり

孝行あるて母をすれ

孝仁壽の帝は

四元電にあたり

右中辨小いり



小野篁

なり天長九年

不系遺唐後方不

病と稱して道あり

の流るるを

知不足齋叢書

孝行

たへん方々其

聖子台端 亮人

東洋の夢見る
急務に従ふ

叙せしむる方也

上
海
之
風

朝の大儒と

あふがき
らん